2018
Vol.13
SENSHU UNIVERSITY

Socio-Intelligence report

Si-report

専修大学のビジョンと現状

建学の精神と21世紀ビジョン

「社会知性の開発」

SENSHU SOCIO INTELLIGENCE

専修大学は、1880年（明治13年）、米国留学から帰国した4人の若者により創立されました。相馬永胤、田尻稲次郎、目賀田種太郎、駒井重格の創立者たちは、明治維新後、米国のコロンビア、エール、ハーバード、ラトガース大学にそれぞれ官費や藩費により留学し、米国の地で「専門教育によって日本の屋台骨を支える人材を育てよう。そのことが海外で長年勉強する機会を与えてもらった恩に報いることだ」と考えました。4人の創立者は、帰国後、経済学や法律学を教授するため本学の前身である「専修学校」を創立します。わが国があらゆる分野において新時代を担う人材を求めた時代にあって、留学によって得た最新の知見を社会に還元し、母国日本の発展に寄与しようとしたのです。いち早く近代法の考え方をわが国に根付かせようとした本学は、五大法律学校の一つとして重要な役割を担いました。

以後、本学は関東大震災や戦禍などによって極めて困難な状況に直面しながらも、学窓の灯火を守り続けてきました。21世紀に入った今日においては、私学全体にふりかかる大きな荒波を乗り越え、さらなる発展を遂げなければなりません。常に創立の原点に立ち返り、本学の進むべき指針を熟慮するとき、自ずと道は拓かれます。その指針として、本学は建学の精神である「社会に対する報恩奉仕」を現代的に捉え直した「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」を21世紀ビジョンに据えました。

今日、グローバル化の拡大と異文化交流の進展、情報化の加速、少子高齢化の進行など、我々が取り組まなければならない課題は山積しています。これらの社会的課題を解決するためには、地球的視野から諸問題を捉える力、創造的発想力、さらには深い人間理解や倫理観が求められます。こうした新時代の社会で求められる知性こそ、「社会知性」だと専修大学は考えます。それは、学生一人ひとりが自己実現に生かせる知であると同時に、「専修大学が創り育てる知」でもあります。

専修大学21世紀ビジョン
「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」

社会知性（Socio-Intelligence）とは

専門的な知識・技術とそれに基づく思考方法を核としながらも、深い人間理解と倫理観を持ち、地球的視野から独創的な発想により主体的に社会の諸課題の解決に取り組んでいける能力である。

新学科開設に向けた"キーパーソン3名"による鼎談

大学教育の未来を見据えた二つの新学科を開設。

専修大学長
佐々木 重人

経営学部長
蔡 芒錫

文学部長
廣瀬 玲子

新学部・学科構想 × **人材育成**

いよいよ、平成31年度より教育組織改革の第一弾が具現化します。

佐々木 ） 専修大学では21世紀ビジョンとして「社会知性の開発」を掲げ、社会の諸問題を解決できるような学生を育てたいと考えています。今回、経営学部にビジネスデザイン学科、文学部にジャーナリズム学科が開設されます。ビジネスデザイン学科は「独創的発想」がキーワード。企業の持続的発展のためには、既存の営業活動や事業活動だけでなく、新規事業を立ち上げたり新商品を開発したり、常に新しい独創的なアイデアをビジネスに反映させていくことが必要で、そのための学びができる学科です。一方、ジャーナリズム学科は、社会で起こる様々な出来事を情報というパッケージにまとめ、発信するといった一連の作業を具体的に学ぶことができますが、もう一方で情報を扱う者が身につけるべき「倫理観」と対峙することができる学科です。

それぞれの学科の設置趣旨について教えてください。

蔡 ） 経営学には、既存の組織のマネジメントと新しい組織の創造という2つの使命があります。これまでの日本社会は既存の組織を効率よくマネジメントすることを重視し、経営学部もそこに重点を置いてきました。しかし、経済の成熟化やグローバル化の進展などに伴い、伝統的な組織のけん引力には陰りが見えはじめています。一方で、新しい何かを生み出すことの重要性はますます高まってきています。そこで、新しい組織や制度、新しい製品やサービスなどをデザイン（創造）できる人材を育成するために

ビジネスデザイン学科を設立します。その意味で、新設のビジネスデザイン学科はまさに、今の時代に求められている学科です。

廣 瀬 ） ジャーナリズム学科は一言で言うと、情報スペシャリストを育てる学科です。今や世界の情報が様々なメディアを通じて瞬時に伝わりますが、中には誤報や悪意に満ちた情報も多い。それを単に受け入れるだけでなく、主体的に自分の目と耳で真実を見極めることは、現代を生き抜く社会知性の一つとして重要だと考えます。そこで、必要な情報を自らの手で得る能力、それを分析・整理する力、様々なメディアを駆使し、強い倫理観をもって世の中に発信できる力を養成します。これはどんな仕事に就いても必ず役に立つ力ではないでしょうか。

ジャーナリズム学科は、従来の人文・ジャーナリズム学科と比べて何が変わるのでしょうか？

廣 瀬 ） ジャーナリズムに特化するとともに、スポーツインテリジェンス分野が強化されます。今のスポーツ界はデータ分析が必要不可欠。専門の教員を他学部から招き、データ収集、調査、分析の学びを取り入れ、スポーツ記者やスポーツ指導者などの

人材育成につなげます。

佐々木 ） スポーツとジャーナリズムは一見、別物に見えますが、実は極めて親和性は高い。それにスポーツジャーナリズムがビジネスデザインと結びつくこともあるでしょう。

蔡 ） 確かにアメリカなどでは、スポーツマネジメントといった分野も存在していますね。今後のコラボレーションが楽しみですね。

廣 瀬 ） 同じ生田キャンパスで学ぶので、交流もしやすいと思います。

では、具体的に、包括する領域やカリキュラムの特徴をお聞かせください。

蔡 ） ビジネスデザイン学科には3つの重点領域があります。今後の社会や経済のあり方を先取りするための「企業と市場・社会」という領域、顧客のニーズを先取りするための「顧客満足とマーケティング」という領域、そして、実際の新規事業を立ち上げるための「ベンチャー創造と事業継承」という領域です。中でも、ベンチャー創造と事業継承の領域は、新規事業の成功率が非常に低いことに鑑みると特に必要な領域と言えます。

廣 瀬 ） ジャーナリズム学科には4つの科目群が置かれます。第一線で活躍するジャーナリストに実践的な取材や報道の方法を学ぶ「ジャーナリズム」、文字、映像、コンテンツ制作、ウェブデザインの技術も学べる「メディアプロデュース」、映像を含めた記録資料の保存、管理、使用法を学び、司書や学芸員の仕事にもつながる「情報文化アーカイブ」、そして前述の「スポーツインテリジェンス」です。また、3年次には授業の一環としてインターンシップに参加できることも特徴です。テレビ局、新聞社、出版社、書店、ネットメディアなどの現場が就職活動前に体験できるのは大きな魅力だと思います。

こういう学生に学んでほしいという、求める学生像はありますか？

蔡 ） 新しい何かを世の中に提案できる人材になるためには、次の2つが必要です。1つは、独創力やチャレンジ精神です。もう1つは、世の中の常識に疑問を投げかけ、自分とは違った考え方や価値観を持っている人々と向き合うオープンマインドです。これらの2つを兼ね備えた人材に是非とも学んでほしいと思います。

廣 瀬 ） ジャーナリズム学科では、聞く、話す、読む、書くといった人と関わるための基本的なコミュニケーション能力を伸ばしたいと思う学生を望みます。論理的に筋道立てて物事を考えることに興味がある人、テロや自然災害など国内外で起こる様々な出来事の背後にある真実に迫ろうとする人、社会貢献に意欲のある人などにも来てほしいですね。

どんな学生を育てたいと考えますか？

蔡 ） 理想としては、Google社やApple社のような組織を作れる人材を育てることです。しかし、現実的には多くの学生たちが企業組織に就職します。たとえ企業組織に就職した場合でも、勤め先で新規事業を手がけたり、新しい商品やサービスを企画できる人材を育てたいです。可能性をもって入学した学生たちの背中を押しながら、どんな小さなことでもいいから何か新しいことを創造できる人材を輩出することが我々の目標ですね。

廣 瀬 ） まず、マスメディア業界等で活躍する人材を育てたいという思いがあります。ですが、ジャーナリズム学科では幅広い教養と表現力が身に付き、情報が氾濫する現代社会の中の真実を見抜く目を養うことができますので、どんな分野でも活躍できるはずです。自分で課題を見つけて取り組み、問題を整理、分析し結論が出せる、そんな問題解決能力を備えた人材を世の中に送り出したいと思います。

2つの新学科が生まれ、専修大学が目指す次のステージとは？

佐々木 ） 生田での教育組織改革の次のステージは、神田での教育組織改革です。専修大学では創立140周年に向けて靖国通り神田新校舎（仮称）の建設工事を開始しました。2020年の運用開始に合わせ、文学部日本語学科を改組し、地球的視野で物事を考える国際教養人を養成する国際系新学部設置を構想中です。また、商学部の神田移転も同時に進行する予定です。これまでの法学部に加え、国際系新学部と商学部が神田の地に展開することで、それぞれの学部の特長を活かした教育のシナジー効果が期待できます。神田での教育組織改革とは別に、生田でも新たな学科構想が検討されていますし、今後は、神田と生田両キャンパスの更なる連携も課題となりますが、現時点で更に「次」を考えるより、改革が進んでいく過程で理想的な形が自然と見出されることでしょう。専修大学は将来に渡って、社会の要請に応える大学として在り続けたいと考えています。

PROFILE

専修大学長
佐々木 重人
Sasaki Shigeto

［略 歴］
1978年専修大学商学部会計学科卒業。83年専修大学大学院商学研究科博士後期課程単位取得満期退学。博士（経営学）。83年専修大学商学部助手。88年同助教授。95年同教授。2013～16年商学部長。16年より専修大学長（現職）。11～13年税理士試験委員。専門は会計史。

経営学部長
蔡 芹錫
Chae In-Seok

［略 歴］
1992年韓国・延世大学にて経営学修士取得。93年日本政府文部省（当時）国費留学生として来日。98年慶應義塾大学商学研究科博士課程修了（商学博士）。99年専修大学経営学部専任講師。2002年同准教授。08年同教授。16年より経営学部長。専門は組織行動論。

文学部長
廣瀬 玲子
Hirose Reiko

［略 歴］
1983年東京大学文学部卒業。91年東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。文学修士。97年専修大学文学部助教授。2003年同教授。14年より文学部長。専門は中国文学。

※役職は取材当時のものです。

生田2・3号館が神奈川建築コンクールで一般建築物部門優秀賞

生田キャンパスの2・3号館が2017年4月より使用開始。両館は第61回神奈川建築コンクール一般建築物部門において優秀賞に選ばれました。本学が同賞を受賞するのは2015年の国際交流会館以来となります。アクティブラーニングを支援する2号館の1、2階の教室はすべてガラス張りで開放感にあふれ、各階のアカデミーモールには自由に利用できる椅子と机が置かれています。研究棟を設けた3号館では大学院生が日夜研究に励み、専修大学から世界へ社会知性を発信する役割を担います。建物の裏手には緑あふれる休憩スペースが設けられ、学生・院生たちが学びの合間にほっと息をつける、憩いの場として親しまれています。

生田2号館（手前）と3号館

靖国通り神田新校舎（仮称）着工

神田キャンパスに新設する靖国通り神田新校舎（仮称）の地鎮祭が現地で開催され、建設工事が始まりました。竣工は2019年12月予定、20年4月からの運用開始を目指します。新校舎は靖国通りに面しており、現在の神田キャンパスの南西に位置。地上約80mの高さで地下1階、地上16階建てとなり、神田・生田両キャンパス合わせて最高層の建物になります。各フロアや階段には憩いの場所として利用できるオープンスペースを多数設け、「どこでもアクティブラーニング」を実現。法学部に加え生田キャンパスから移転予定の商学部と、設置構想中の国際系新学部が利用し、専修大学の新たな学びの拠点となります。

神田新校舎完成イメージ

神田新校舎フロア構成

16F	プレゼンテーションホール
15F	グローバルフロア
14F～13F	メディアセンター（図書館）
12F	ゼミ室
8～11F	教室
7F	学生ラウンジ（食堂）
4～6F	教室
3F	多目的ホール
2F	吹き抜け　教員室
1F	エントランスホール

知の発信のための研究開発

国際交流をさらに加速

ベトナム、タイ、韓国に新たな交流拠点。

東南アジア圏域における新規協定 ～国際交流協定校は17カ国・地域24大学に～

専修大学は、ベトナム・ハノイ市のベトナム社会科学院と、タイ・バンコク市のタイ商工会議所大学と国際交流協定を締結しました。これまで両校と本学の関係は、研究所単位の国際交流組織間協定の形で進められてきました。このたび、大学間の包括的な交流をする国際交流協定への発展を契機に各国間の友好を深め、国際シンポジウムの開催や学部・研究所の枠組みを超えた共同研究などの研究者交流が加速します。本学では、社会知性開発研究センターを中心として、社会科学的なアプローチから東南アジア圏域における共同研究を促進してきました。今回の協定締結は、発展著しいASEAN諸国において、あるべき経済活動を見出す原動力となることが期待されます。

新規協定	New Overseas Partner Organizations
ベトナム	ベトナム社会科学院［ ハノイ市、略称：VASS ］(国際交流協定)
タイ	タイ商工会議所大学［ バンコク市、略称：UTCC ］(国際交流協定)
韓国	慶熙大学外国語学部［ 龍仁市 ］(国際交流組織間協定・文学部と協定) ソウル国立大学アジア研究所社会科学資料院［ ソウル市 ］ (国際交流組織間協定・社会知性開発研究センターと協定)

VASS本部(左)と図書館

韓国における新規協定 ～国際交流組織間協定校は4カ国10機関に～

専修大学は、韓国に拠点を置く2大学と国際交流組織間協定を締結しました。文学部は、龍仁市の慶熙（キョンヒ）大学外国語学部との協定関係に基づき、日本語学科の専門科目「日本語教育実習」を同大学で実施する他、短期留学生を受け入れます。社会知性開発研究センター（ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点）は、ソウル市のソウル国立大学アジア研究所社会科学資料院との協定関係に基づき、「ソーシャル・ウェルビーイング研究コンソーシアム」における国際比較調査のデータ整備・分析やシンポジウムなどを行います。

認知症支援協同研究 オランダで成果発表

ネットワーク情報学部は、川崎市、渋谷区、ＮＰＯ法人、企業、大学（慶應義塾大、青山学院大、オランダ・デルフト工科大）との連携事業である共同研究に参加。「ピープルデザインプロジェクト」として、栗芝正臣准教授、佐藤慶一准教授、須藤シンジ非常勤講師の指導のもと、同学部の学生21名が「認知症の人の暮らしを支援するためのモノやサービス」をテーマに成果発表を行いました。

経営学部4教授が教育国際会議で最優秀賞

経営学部の間嶋崇教授、橋田洋一郎教授、青木章通教授、植竹朋文教授の報告がダブリンで開催されたアイルランド教育国際会議（Ireland International Conference on Education＝IICE）でExtended Abstract部門の最優秀賞を受賞しました。教育の理論と実践の促進を目的とする同会議には、81カ国から論文など381件の応募がありました。

社会知性開発研究センターから世界へ

専修大学と世界をつなぐ ～国際交流協定校等と活発な相互交流事業を促進～

海外で2度のカンファレンス

社会知性開発研究センター／ソーシャル・ウェルビーイング研究拠点（代表：原田博夫経済学部教授）は、海外での初のカンファレンスをタイのチュラロンコン大学で開催。7カ国から計48人が参加しました。会期中、ASEAN諸国を中心とする研究者や国際機関の関係者から、持続可能な開発目標とソーシャル・ウェルビーイング向上の両立について報告や提言があり、研究成果を政策提言として社会に還元していく必要性が確認されました。同拠点第2回目となる国際カンファレンスは「地域統合におけるソーシャル・ウェルビーイング：統合ASEANモデルを目指して」と題してハノイのベトナム社会科学院（VASS）で開催。1日目は、プロジェクトの研究報告が行われ7カ国から28人が参加しました。2日目は、一般参加者向けの国際シンポジウムが行われました。

協定校で国際シンポジウム

社会知性開発研究センター／アジア産業研究拠点（研究代表：小林守商学部教授）の国際シンポジウム「メコン地域のビジネス発展」が、バンコク市のタイ商工会議所大学（UTCC）で開催されました。本学からは小林教授と岩尾詠一郎商学部教授がメコン地域の東西経済回廊や南部経済回廊周辺地域に関わる投資環境とロジスティクスの現状を報告。本シンポジウムの会場にはUTCCの教員、学生ら合わせて約100人が訪れ、熱心に耳を傾けました。

四川省と共同地域減災研究

左から小笠原、宮川、大矢根、李、張の各氏

社会知性開発研究センター／四川・ローカルリスクコミュニケーション研究拠点（研究代表：大矢根淳人間科学部教授）の新プロジェクト「ローカル・コミュニティにおける減災サイクルの研究」がスタート。大地震があった四川でのフィールドワークの実施や、減災サイクル論、復興のためのレジリエンス論をテーマとして「四川省地域と国別重点研究拠点日本研究センター」と共同で2022年度まで6年間、調査や研究が行われます。

科研費新規採択率、私大1位を達成！

国内最大の競争的研究資金である科研費において、2017年度の本学新規課題採択率は38.5 %（全国平均25.0%）となり、新規応募件数が50件以上の研究機関では私大1位となる採択率を達成しました。専修大学が新規採択されたのは25件あり、これまでの継続分と合わせて90件、科研費総額は1億1390万円（直接経費のみ）となっています。昨年度の新規応募件数は過去最多の10万1247件となった一方で、新規に採択された件数は昨年度より1363件減少し、2万5313件。新規採択率も昨年度から1.4ポイント減少しています。その中で本学は国内全研究機関を含む全体でも採択率7位と高い成果を上げています。

2017年度科研費新規採択率(%)		
1	一橋大学	57.0%
2	東京外国語大学	51.6%
3	高知県立大学	43.1%
4	東京学芸大学	40.7%
5	防衛大学校	40.3%
6	高知工科大学	39.8%
7	専修大学	38.5%
7	基礎生物学研究所	38.5%
9	学習院大学	38.2%
10	分子科学研究所	37.7%

専大生のチカラ

※学生の学年、情報は平成29年度時点のものです。

専大生初の「トビタテ」留学生、語学習得・就業体験を報告

留学希望者へ向けて、自らの実体験を交えた貴重なアドバイス。

官民共同の海外留学奨学金制度、「トビタテ！留学JAPAN」に専大生として初採用された安藤聡希さん（経済4）による体験報告が生田キャンパスで行われました。安藤さんは、2016年9月から約1年間、中南米のペルー、グアテマラの2カ国でインターンシップなどを体験。留学前は、スペイン語のあいさつと一桁の数字が分かる程度だったという語学力が、現地語学学校の授業と自己学習あわせて1日最長10時間を費やす努力により4カ月間で現地の人との日常会話ができるレベルになりました。安藤さんは海外に適応できた理由として「コミュニケーション能力イコール語学力ではない。まず人と向き合うことが大切」、「あきらめない精神力を持つことが目標達成の一歩になる」と語り、将来は環境問題や貧困などの解決を目指しソーシャルビジネスの分野で働きたいと抱負を述べました。

グアテマラでのインターンシップ。職員と意見を交わす安藤さん（左）

大関 稔さん（商3）アマ囲碁で名人位奪取

アマチュア囲碁のビッグタイトル2冠達成、海外タイトル戦でも連勝中。

大関稔さん（商3）

神奈川県「ゆがわら石亭」で打たれた第12期朝日アマチュア囲碁名人戦三番勝負（朝日新聞社、日本棋院主催）において、大関稔さん（商3）がアマ名人の平野翔大さん（立命館大2年）を2連勝で降し、見事、囲碁のアマ名人位を奪取しました。大関さんは「2局とも苦しい展開だったが、それぞれ後半で巻き返し勝つことができた。2017年のアマ名人戦では準決勝まで進んで敗れ、悔しい思いをしただけにとてもうれしい」と初のアマ名人となった喜びを語りました。大関さんは2016年の第62回全日本アマチュア本因坊決定戦全国大会（毎日新聞社など主催）でも優勝しており、これでアマア囲碁のビッグタイトル2冠達成となります。これまでにも学生本因坊戦を連覇しているほか、学生十傑戦など学生の主要棋戦のすべてを獲得。また、世界学生王座戦でも2連覇中と勢いに乗っており、加えて2017年7月にタイ・バンコクで行われた世界大学生選手権戦（国際大学囲棋連合主催）では、日本人として初優勝を遂げるなど、世界を舞台に目覚ましい活躍を続けています。

公認会計士合格者30名、司法試験・国家公務員採用総合職試験にそれぞれ4人が合格！

2017年の公認会計士試験の合格者が金融庁の公認会計士・監査審査会から発表され、本学の在学生からは3年次生8名を含む19名が合格し、卒業生も含めると30名が合格しました（2018年1月16日現在判明分）。また2017年の司法試験では、専修大学法科大学院修了者の4人が合格した他、国家公務員採用総合職試験においても、同じく4人が合格を果たしました。

食生活ジャーナリスト大賞受賞

限界集落の活性化に取り組み、その活動記録や住民との交流を『大学生、限界集落へ行く』（専修大学出版局）として出版した経営学部の森本祥一教授と森本ゼミ（27人）が、第1回食生活ジャーナリスト大賞を受賞しました。ジャーナリズム部門、食文化部門の2部門からなる同賞は、食生活ジャーナリストの会（JFJ）が、食に関する情報発信や食育、食文化の継承の分野で優れた活動をしている個人や団体に贈るもので、森本ゼミは食文化部門を受賞しました。都内で行われた授賞式には森本教授とゼミ生代表の坂本聖真さん（経営4）、宮下太希さん（経営4）が出席。坂本さんと宮下さんは「活動は森本教授や先輩方が辻又の方々と一緒に築き上げてきたもの。その土台を大切にしてこれからも地域をもり立てていきたい」と今後の意気込みを語りました。

右から宮下さん、坂本さん、森本教授、贈呈者の小島正美ＪＦＪ代表幹事

情報メディア学会研究発表会で最優秀賞受賞

人文・ジャーナリズム学科の植村八潮ゼミの岡田水希さん（文4）と酒井未穂さん（文4）が、情報メディア学会の秋と春の研究発表で最優秀賞を受賞しました。岡田さんは、情報メディア学会第19回研究会での論文発表会で「公立図書館における雑誌付録の取り扱い―全国調査の結果に見る現状と課題―」が、五つの発表の中から会員投票で最優秀発表賞に選出。酒井さんは、横浜市の関東学院大学での情報メディア学会第16回研究大会で「デジタルテレビのアクセシビリティ：視覚障がい者のテレビ視聴の現状」をポスター発表し、5候補の中から最優秀ポスター発表賞に選ばれました。二人のテーマはいずれも卒業論文の課題で、発表後にはさらに聞き取り調査も加えて卒論を書き上げ、植村ゼミ卒論発表会でその集大成を披露しました。

左から岡田さん、植村教授、酒井さん

TOHOシネマズ学生映画祭グランプリ受賞

第12回「TOHOシネマズ学生映画祭」で後藤駿治さん（ネット情報3）がPV部門グランプリに輝きました。2017年にはCM部門で準グランプリを獲得しており、2年連続の快挙。後藤さんは「グランプリを取れて本当にうれしい。今後もこの調子で映像制作に取り組みたい」と今後の制作活動に意欲を見せました。

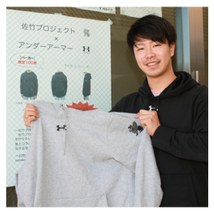
受賞作の一コマ

「春のひだまり弁当」を販売

商学部 鹿住倫世ゼミ生6人が春をテーマに考案した「春のひだまり弁当」が、京急ストア（本社・東京都港区）で期間限定販売。売り上げ予想を上回る約7000個を完売しました。これは第13回神奈川産学チャレンジプログラム（神奈川経済同友会主催）において最優秀賞に選ばれたことを機に商品化されたものです。

体育会応援オリジナルパーカーが好評

ネットワーク情報学部佐竹弘靖プロジェクトが、体育会応援を目的にオリジナルパーカーを販売。同学部3年次生の必修科目「プロジェクト」の一環で、スポーツ用品メーカー・アンダーアーマーとのコラボレーション企画として始動したもので、100着（2色4サイズ展開）を販売しました。



SKVが千代田区から表彰

防災と地域貢献を柱に活動をしている学生団体SKV（専修神田ボランティア）が千代田区から表彰を受けました。地域コミュニティへの貢献が評価されたことを受けて代表の加藤由樹さん（法3）は、「活動を重ねることで地域と顔の見える関係ができる。それが防災につながる」と語りました。

SENSHU SPORTS & TOPICS

※学生の学年、情報は平成29年度時点のものです。

フェンシング —Fencing—

世界選手権個人で日本人女子初優勝、国内リーグでも優秀な成績を残す

日本女子初の快挙！
菊池選手が世界ランキング1位に躍進

ブルガリアのプロブディフで行われたフェンシングのジュニア・カデ世界選手権の女子フルーレ個人で、菊池小巻さん（商3・翔陽高）が金メダルを獲得。同大会で日本の女子選手が優勝したのは初の快挙となります。また、1位の順位ポイントを加えた結果、ジュニア女子フルーレでランキング世界1位を獲得。今後、年齢制限のないシニアカテゴリーで戦う菊池さんは「（優勝は）シニアで戦っていく励みになる」と語りました。

菊池さんは、フェンシング女子フルールの2017年ジュニア・カデ世界選手権を制した後、2016年全日本選手権優勝と併せて、佐々木重人学長と渡辺達朗商学部長に成果を報告。佐々木学長から東京オリンピックでの活躍に期待を込めたエールを送られると、はにかみながらも笑顔で応えました。

関東学生フェンシングリーグで女子エペ3位

関東学生フェンシングリーグ戦、女子エペで専修大学が2勝を挙げ3位入賞。前回の関東学生選手権で敗れた悔しさをバネに大きく飛躍を遂げました。

【提供・日本フェンシング協会】

菊池小巻選手と佐々木学長

左から佐藤、能勢、曽根、山田

ラグビー —Rugby—

関東大学ラグビーリーグ2部優勝、入れ替え戦に勝利し1部復帰を果たす

関東大学ラグビーリーグ2部の専修大学は、序盤から6戦全勝という驚異的な強さで勝ち星を重ね、最終戦を待たずに優勝が決定。その後の1部・2部入れ替え戦では、関東学院大との激戦を制し、見事3年ぶりとなる1部復帰を決めました。1部復帰を期して臨んだ昨シーズンは、部員一同下半身の強化に取り組み、当たり負けしない強い体を作り上げました。その成果が実り、入れ替え戦では前半からフィジカル面で相手を圧倒しました。2018年のシーズンにおいては、1部リーグでの飛躍が期待されます。

卓球 —Table tennis—

優勝2回、シングルス通算40勝特別賞など、田添選手が躍動！

田添健汰選手

1年次から主力としてチームの勝利に貢献し、4年間でシングルス通算40勝をあげた田添健汰さん（商4・希望が丘高）が学生卓球リーグ特別賞を受賞しました。特別賞は通算28勝以上の選手に贈られるもので、通算40勝は専大では 歴代最多。田添さんはアジア卓球選手権混合ダブルスで銅メダル、春季関東学生リーグ戦で3季ぶりとなるチーム優勝、世界卓球混合ダブルスではベスト8に進出するなど、出色の活躍を見せました。

主な成績 好調の卓球部、各選手の快進撃続く

- 卓球世界選手権大会 混合ダブルス／ベスト8（田添（健）・前田（日本生命）組）
- アジア卓球選手権 混合ダブルス／銅メダル（田添（健）・前田（日本生命）組）
- ITTFワールドツアー韓国オープン／U-21シングルス優勝（安藤）
- ITTFワールドツアーポーランドオープン／U-21シングルス優勝（及川）
- ユニバーシアード競技大会／女子団体ダブルス銀メダル、ダブルス銅メダル（安藤）
- 全日本大学総合選手権大会／女子シングルス優勝（安藤）女子ダブルス優勝（安藤、枝松組）
- 東京卓球選手権大会／女子シングルス優勝（安藤）
- 関東学生リーグ戦／男子優勝、殊勲賞、優秀選手賞（及川）、優秀選手賞（安藤）、最優秀ペア賞（田添（健）・郡山組）
- 関東学生卓球選手権大会（男子）／シングルス優勝（田添（響））

各界で活躍する専大出身スポーツ選手

プロ野球 福岡ソフトバンクホークスからドラフト2位指名

高橋 礼（商4）

福岡ソフトバンクホークスからドラフト2位指名を受けた高橋礼投手（商4・専大松戸高）が2018年からプロ野球選手としての一歩を踏み出します。自身の武器であるアンダースローを磨き、将来の日本代表入りとプロでの活躍が期待されます。

浦和レッズ長澤さん（平26経営）が日本代表に初召集

長澤 和輝（平26経営）

サッカー部OBの長澤さん（平26経営、浦和レッドダイヤモンズ）が2017年11月の国際親善試合で日本代表メンバーに初召集されました。専大出身者の日本代表入りは初めてのことです。

フリースタイルスキー＆スピードスケート 五輪代表に選出

小野塚 彩那（平22商）
土屋 良輔（平29経営）

2018年の平昌オリンピックに2名の卒業生が出場しました。
◎小野塚：5位入賞
◎土屋：初の五輪で、自身の日本記録を更新する13分10秒31を記録

TOPIC 1 就職支援協定を新たに締結

専修大学は、23府県1市（平成30年3月末現在）の地方自治体と就職支援協定を締結しています。この取り組みは、学生の地方での就職支援を拡充すると共に、地方自治体のニーズに応え、「地方創生」に貢献をするものです。2018年1月に山梨県庁で行われた締結式には佐々木重人学長が参加し、後藤斎知事とともに協定書に署名。佐々木学長は「地方創生のキーワードの下、大学のミッションとしてUターン就職率を上げていきたいと考えている。学生や保護者に山梨県の情報を伝えていきたい」と語りました。今後は学内での就職説明会やインターンシップ相談会などに各県が相談ブースを設けるなどして連携を強化。協定先地元企業の情報提供もますます充実し、地域に寄与する人材輩出に向けてUIJターン就職の促進を図ります。

TOPIC 2 グリークラブ創設者肥田さんが藍綬褒章受章

男声合唱団グリークラブの創設者の肥田英臣さん（昭40経済）の褒章受章を祝う会が都内で開かれました。肥田さんは大学卒業後、故郷静岡県で高校教員と臨済宗清梵寺の住職を務め、教員を退職した後は住職に専念、1993年から保護司となり更生保護に尽力した功績により、藍綬褒章を受章しました。

TOPIC 3 大学公式HPをリニューアル

公式ウェブサイトが5年ぶりにリニューアルされ、本学の21世紀ビジョン「社会知性の開発」を具現化する「SENSHU ONLINE」が新たに設けられました。全ページがスマートフォン対応になるなど閲覧機能も向上。その他にも本学の魅力を伝えるコンテンツが充実しています。

～貴重書ギャラリー～

専修大学図書館は、明治44年（1911）創立者の相馬・田尻還暦記念文庫を元に、大正元年（1912）図書館を開設、平成24年（2012）に100周年を迎えました。この間に収集した図書資料は約170万冊に及び、なかにはフランス革命期の大コレクション（ベルンシュタイン文庫）、江戸戯作コレクション（向井文庫）、蜂須賀家旧蔵本、本学ゆかりの方々の旧蔵コレクション、さらには世界の名著・古典と評される図書なども所蔵しています。

【洋書】ポリクロニコン

ヒグデン『ポリクロニコン』写本
Higden, Ranulf, d. 1364.
[Polychronicon].
[London] : [s.n.] , [ca. 1420].
[214] leaves, bound ; 44 cm.
Ms.

天地創造から14世紀中葉に到るまでの人類の歴史を年代順に叙述した壮大な歴史書。著者ヒグデンはイギリスのベネディクト会修道僧であるが、一国の歴史にとどまらない世界史観は、アウグスティヌスの『神の国』のなかのキリスト教的歴史観がその根底にあるともいわれている。人類の歴史を6つの時代に区分し、それぞれの時代のなかで強大な力を誇った帝国の興亡を描き出すことで、その背後にある神の摂理を解き明かし、今に生きる者への道徳的教訓を導き出そうとしている。本書には超自然現象の記述を含むものの、14世紀当時の歴史、地理、科学技術などについての知識を備えたヒグデンの世界史上における自国の歴史的意義や位置付けの試みが、当時の知識階層からおおきな共感をよんでいる。その後イギリスから出された歴史書の多くが本書の「継承」を謳う姿勢にも現れるほど、本書の根本の精神は2世紀以上にわたり根強く支持されていく。ヒグデンは1364年に亡くなるが、その後をトレヴィサが1387年頃、ラテン語から中英語に翻訳して完成をみた。本書の見事な装飾と書体は、この写本が恵まれた環境で製作されたことがうかがえる。1420年頃ロンドンで書写されたと推定され、贅を凝らした質の高い彩色写本である。

「Si-report」

「Si」とは…　「社会知性：**Socio-Intelligence**」の頭文字［S］［I］と「**SENSHU Intelligence**」の頭文字［S］［I］を表現しています。本誌は、専修大学のビジョンと現状をリポートしていきます。

［シンボルマーク&カラー］

Sの字は専修大学と21世紀ビジョン「社会知性（Socio-Intelligence）の開発」の「S」を意味します。ブルーの曲線は大海原を、緑の球体は地球を表し、本学で「社会知性」を育んだ人材が、世界に羽ばたき、活躍するさまを表現しています。

専修大学マスコット「センディ」

［マスコット］

獅子の姿に鳳の羽を配した本学のマスコットは、若者たちに無限の可能性を持つ未来へ力強く羽ばたいてほしいという思いが込められています。

［ 専修大学　学長室企画課 ］

（神田校舎）〒101-8425 東京都千代田区神田神保町3-8　（生田校舎）〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

Tel：044-911-1252　Fax：044-900-7803　https://www.senshu-u.ac.jp/

※本誌は、学生・教員へのインタビューに加え、ニュース専修掲載記事や本学HP等を通じて公開された情報を元に編集し発行しています。

2018年4月発行